

東北山スキーと温泉の集い

二岐温泉

1990年3月10日～11日

恒例の東北の山スキー仲間との交流会に参加した。今年の幹事は福島キャンペーン奥田さんで、会津の二岐山周辺で行なわれた。我々はいつも顔を出すだけ、ただただ感謝するのみである。参加メンバーはゼフィルス3名、キャノン5名、仙台の仲間が4名、当会が5名、それに山塾の岩崎さんがスキーなしで参加された。テレマーカーはゼフィルスの大塚さんだけだった。

10日はゼフィルスとキャノンと当会のメンバーが二岐山へ登り、思いのほか雪がなくて充分山スキーが楽しめた。これに気を良くして翌11日もと思ったのだが、取り付きまで行って当会のメンバーの一部がヤル気を無くし、スタートモンドラしてしまい、少し恥しい思いをしてしまった。他のメンバーはロープをフックスしたりでヤル気満々なのに対し、当会のメンバーは、先日の雨ヶ立山などもそうだが、少し淡白というか、諦めが早過ぎる、そんな気もした。反省(決断力に秀れている作野、矢野のコンビは早々に引き揚げてしまった。)

小白森山

3月11日(快晴)

温泉から林道(除雪なし)を最初の橋の所まで辿る。取付予定の所だ。ところがこへ周りの山腹は急斜面で取り付くシマがない。小泉氏らが早速ロープでルートを確保する。さすがだ。一段高い所へ登ってからシールで歩き始める。スキーなしの岩崎氏と奥田、細川の両氏は夏ルートを登ることで引き返し、残りのメンバーがこの尾根を登

ることになった。

当初この尾根を滑る予定だったのですが、思ったより雪が少ない。ヤブが多い。結局ここは登りだけにして、下りは夏ルートにしようということになった。結構急だったり、雪が少なかったり、暑くてシールにバットリ雪が着いてしまったりで、たっぷりの大汗をかきながら、やっと稜線の1,308m地点に到着。ホッとする。少し登ると、温泉からも見える大斜面の基部に着く。伐採跡の斜面で思ったほど傾斜はない。山頂へは右手の尾根をシールのまま登れた。山頂の展望は大きく、いろいろ見える。昨日登った二岐山がすぐ近くに見えるが、南面のため雪が少なそうなので、ブッシュが若干多そうだった。

広い山頂では先行の3名が、すでに休養充分といった感じでスタンバっていた。シールで登るより、戻ってでも登山道を登る方がずっと早いという、マカ不思議の山だ。

下りは山頂でスキーをはき、先程へ急斜面の頭まで尾根を滑る。大斜面は案じていたほど雪質が悪くないでの、皆思い思いのショーフールを描く。すぐに基部まで滑ってしまい、五とは狭い切り開きの道をスキーをぬいだり、またつけたりしながら登山口へ下った。

温泉で解散となり、我々は早く帰りましたのですぐに帰ってしまった。

奥田さんお疲れ様でした。(菅沼)

コースタイム

温泉 8:30 → 取付 9:00 / 10:00 → 稜線 12:00
小白森山 12:30 / 13:00 → 温泉 14:20.

